

2026年 第42回 同志社ウィーク

SAILING INSTRUCTIONS

主 催：同志社大学体育会ヨット部鯨会
共同主催：NPO 法人 滋賀県セーリング連盟
後 援：京都府セーリング連盟
場 所：滋賀県立柳が崎ヨットハーバー
期 間：2026年3月27日（金）～3月29日（日）
競技種目：国際470級・国際スナイプ級

1. 規則

- 1.1 本レガッタは、2025-2028セーリング競技規則(以下RRSという)に定義された規則を適用する。
- 1.2 規則42違反に対し、付則Pを適用する。
- 1.3 RRS87及び470クラス規則A6.2とスナイプクラス規則A6に基づき、470クラス規則の規則C節とスナイプクラス規則C節に次の文章を追加する：「完沈を防ぐ目的で、マストトップに浮力体をつけてもよい。」
- 1.4 SCIRA規則の『国内及び国際選手権大会の運営規定』は、同規定9.1に定められたレースを行う最大風速に関する規定を除き、適用されない。
- 1.5 本大会のすべての規則を決定するのは次の通りとする。
 - 1.5.1 【DP】は、その規則の違反に対するペナルティーを、プロテスト委員会の裁量によって失格よりも軽減することができることを意味する。
 - 1.5.2 【SP】は、レース委員会が審問無しに標準ペナルティーを適用することができる規則を意味する。レース委員会は抗議することもでき、その場合は審問を経てプロテスト委員会の裁量でペナルティーが決定する。
 - 1.5.3 【NP】は、この規則の違反は艇による抗議の根拠とはならないことを意味する。これは規則 60.1(a)を変更している。

2. 帆走指示書の変更

- 2.1 帆走指示書（以下 SI という）の変更は、それが発効する当日の 8:00 までに掲示される。

2.2 レース日程の変更は、それが発効する前日の 18:00 までに掲示される。

3. コミュニケーション

3.1 公式掲示板はオンラインのみとし、大会用オルグを利用する。

オンライン掲示板

3.2 【DP】【NP】 競技者とのコミュニケーションは、LINE オープンチャットでおこなう。
(LINE オープンチャットでの選手からの投稿は、特別な理由がない限り認めない。)

3.3 【DP】 緊急の場合を除き、艇はレース中無線送信もすべての艇が利用できない無線通信も使用してはならない。またこの制限は、携帯電話にも適用する。

4. 行動規範

【DP】 競技者及び支援者は、レース委員会からの合理的な要求に応じなければならない。

5. 陸上で発せられる信号

5.1 陸上で発せられる信号は、事務所前のポールに掲揚される。同時に LINE オープンチャットでも発信される。

5.2 陸上に回答旗が掲揚された場合は、レース信号回答旗中の「1 分」を「40 分以降」と置き換える。

5.3 【DP】【NP】 陸上に掲揚された D 旗は、「予告信号は、D 旗掲揚後 40 分以降に発する。」ことを意味する。艇は、この信号が発せられるまで、ハーバーを離れてはならない。

6. レース日程

6.1 それぞれの日のレース数と最初のレースの予告信号予定時刻は次の通りとする。

	レース数		最初の予告信号予定時刻	
	470 級	スナイプ級	470 級	スナイプ級
3 月 28 日(土)	4	4	10:30	470 級の スタート後
3 月 29 日(日)	4	4	10:00	

6.2 1 日の最大レース数は 4 レースとする。

6.3 レース委員会の裁量により、予定された日に行われなかったレースは、翌日に行うことができる。

- 6.4 引き続き行うレースのための予告信号は、できるだけ速やかに発せられる。
- 6.5 3月29日(日)の予告信号は、14:00 より後には発しない。
- 6.6 開会式及びブリーフィングを Zoom で行う。
- 6.7 3月29日(日)閉会式は、柳が崎ヨットハーバーにて行われる。
- 6.8 3月28日(土)のレース後には、Zoom にて招待選手の講習会が開かれる。

7. クラス旗

クラス旗は以下の通りとする。

470 級	白地に青の記章
スナイプ級	白地に赤の記章

8. コース・エリア

コース・エリアの場所を【添付図1】に示す。

9. コース

- 9.1 【添付図2】の見取り図は、レグ間の概ねの角度、通過するマークの順序及びそれぞれのマークをどちらに見て通過するかを含むコースを示す。
- 9.2 予告信号以前もしくは同時にレース委員会信号艇に、選択されるコースを掲示する。また、最初のレグのおおよそのコンパス方位と距離を掲示する。

10. マーク

- 10.1 マーク、又は関連したゲートマークは、次の通りとする。

マーク 1,2,3s,3p,4s,4p	オフセット マーク	新しいマーク	スタートライン マーク	フィニッシュライン マーク
黄色円筒形	オレンジ色 球形	オレンジ色 三角錐形	レース委員会艇	レース委員会艇 オレンジ色円筒形

- 10.2 フィニッシュマークはレース委員会艇か、ブイである。

11. スタート

- 11.1 スタートラインは、レース委員会艇の「オレンジ色旗」を掲げたポールの間とする。
- 11.2 【DP】 【NP】 他のレースのスタート手順の間、予告信号が発せられていない艇は、スタートエリアを回避しなければならない。また、回避エリアはスタートラインから100m 離れたエリアとする。
- 11.3 スタート信号の4分以降にスタートする艇は、審問なしに DNS と記録される。この項

は RRS A5.1 及び A5.2 を変更している。

- 11.4 スタート時に UFD または BFD と記録された「艇のセールナンバー」は、レース委員会信号艇後方に掲示される。UFD 及び BFD と記録された「艇のセールナンバー」の掲示の不備に関して艇からの救済要求の根拠とはならない。これは RRS60.1(b)を変更している。

12. コースレグの変更

コースの次のレグを変更するために、レース委員会は、新しいマークを設置するか、フィニッシュラインを動かすか、風下ゲートを動かす。また、実行できれば直ぐに元のマークを除去する。その後の変更で新しいマークを置き換える場合、そのマークは元のマークで置き換える。

13. フィニッシュ

一端にあるフィニッシュ・マーク上の青色旗を掲揚しているポールと、他端にあるフィニッシュ・マークのコース側との間とする。

14. タイムリミット

- 14.1 タイムリミットとターゲットタイムは以下の通りとする。

クラス	ターゲット タイム	タイムリミット	マーク 1 タイムリミット	フィニッシュ・ ウインド
470 級	40 分	70 分	20 分	15 分
スナイプ級	45 分	70 分	25 分	15 分

- 14.2 マーク 1 のタイムリミット内に 1 艇もマーク 1 を通過しなかった場合には、レースは中止する。

- 14.3 先頭艇フィニッシュ後、フィニッシュ・ウインド内にフィニッシュしない艇は DNF と記載される。この項は RRS 35 と A4, A5 を変更している。

- 14.4 ターゲットタイム通りとならなくても、救済要求の根拠とはならない。これは RRS 62.1(a)を変更している。

15. ペナルティー方式

- 15.1 RRS42 違反に対し、付則P を適用する。

- 15.2 これらの違反に関連するペナルティーのガイドラインは、公式掲示板に掲示される。標準ペナルティーを課された艇の得点略語は「STP」である。これは RRS 63.1, A5.1 及び A10 を変更している。レース委員会またはテクニカル委員会は、抗議することも

でき、その場合は審問を経てプロテスト委員会の裁量でペナルティーが決定する。

15.3 RRS T1 に基づく「レース後のペナルティー」を履行した艇は、得点略語「PRP」を用いて記録される。これは RRS A10 を変更している。

15.4 レース公示の規則およびクラスルール違反に対するペナルティーは、プロテスト委員会の裁量により失格より軽減することができる。

16. 審問要求

16.1 抗議または救済や審問再開の要求はオンラインフォーム〔抗議書〕にて、適切な制限時間内に提出しなければならない。ただし、オンラインフォームにより提出することが困難な場合には大会事務局に持参して提出することができる。

16.2 それぞれのフリートに対して、抗議締切り時刻はその日の最終レース終了後、またはレース委員会が、本日これ以上レースを行わないという信号を発した後、どちらか遅い方から 70 分とする。これは RRS 61.3, 62.2 を変更している。

16.3 審問の当事者であるか、または証人として名前があげられている競技者に審問のことを知らせるため、抗議締切り時刻後 15 分以内に通告を掲示する。審問は柳ヶ崎艇庫の審問室にて公式掲示板に掲示された時刻に始められる。

16.4 レースを行う最終日には、プロテスト委員会の判決に基づく救済要求は、判決の掲示から 20 分以内に提出されなければならない。これは RRS 62.2(a)を変更している。

16.5 レース委員会、プロテスト委員会またはテクニカル委員会による規則 61.1(b)に基づく競技者への抗議の通告は、公式掲示板に提示される。

16.6 RRS42 の違反によりペナルティーを課せられた艇のリストは、公式掲示板に掲示される。

17. 得点

17.1 今大会は RRS 付則A の低得点方式を適用する。

17.2 艇のシリーズ得点は、成立したレースが 4 レース以下であれば全レースの合計得点とし、5 レース以上成立した場合は、レガッタ中の最も悪い得点を除外したレース得点とする。

17.3 艇は掲示された得点またはシリーズ成績に誤りがあると判断した場合、下記 URL のオンラインフォーム〔成績照会のフォーム〕にてレース委員会に提出する事で得点及び、成績の訂正を要請する事が出来る。ただし、オンラインフォームにより提出することが困難な場合には大会事務局に持参して提出することができる。

成績照会：https://www.racingrulesofsailing.org/scoring_inquiries/13505/event

18. 【DP】 【NP】 安全規定

- 18.1 【SP】 競技者はその日の 9:50 までに、LINE オープンチャットから「出艇申告書」のフォームに入力し、送信しなければならない。
- 18.2 【SP】 競技者はその日の抗議締め切り時間内に、LINE オープンチャットから「着艇申告書」のフォームに入力し、送信しなければならない。
- 18.3 【SP】 出艇しない艇は出艇申告受付時間内に、LINE オープンチャットから「リタイア報告書」のフォームに入力し、送信しなければならない。その後出艇する場合は、出艇前に「出艇申告書」のフォームに入力し、送信しなければならない。
- 18.4 【SP】 レースからリタイアする艇は帰着後速やかに、LINE オープンチャットから「リタイア報告書」のフォームに入力し、送信しなければならない。レースからリタイアした艇は、コースを離れる前に、可能であればレース委員会艇、テクニカル委員会艇、またはプロテスト委員会艇にリタイアの意思を伝えなければならない。その後出艇する場合は、出艇前に「出艇申告書」のフォームに入力し、送信しなければならない。なお、陸上でリタイアした場合はできるだけ早く「リタイア報告書」を送信しなければならない。
- 18.5 レース委員会は帆走不可能もしくは危険な状態にあると判断した場合には、各艇の意向に関わらず艇体放棄を含む救助を行うことができる。この強制救助に対しては、艇からの救済要求の根拠とはならない。これは RRS 62.1(a)を変更している。

19. 乗員の交代

その艇に登録されている乗員は、レース間に自由に交代してよい。

20. 装備の交換

- 20.1 損傷または紛失した装備の交換はレース委員会の承認なしでは許可されない。交換の要請は最初の妥当な機会にLINE オープンチャットまたは大会オルグから入手できる〔装備交換申請書〕に入力し、大会メールアドレス宛に送信しなければならない。ただし、提出することが困難な場合には大会事務局に持参して提出することができる。
- 20.2 【SP】 海上で損傷または紛失した装備を交換する艇は可能ならば近くのレース委員会艇に装備の交換がある旨を伝え、抗議締切時刻までに〔装備交換申請書〕を送信しなければならない。

21. 装備と計測のチェック

艇又は装備は、クラス規則、レース公示及び帆走指示書に適合しているか、いつでも検査されることがある。

22. 運営艇の識別

運営艇の標識は次の通りである。

レース委員会	白色旗
プロテスト委員会	赤地に白字で“JURY”と書かれた旗
メディアボート	緑色旗

23. 【DP】 【NP】 支援艇

23.1 支援艇は、レース中の艇に引き波の影響を与えてはならない。

23.2 支援艇は、危険な状態にあるボートからの救助要請により救助を行うか、プロテスト委員会またはレース委員会の要請がない限り、最初にスタートするクラスの準備信号の時刻からすべての艇がフィニッシュまたはリタイアするか、またはレース委員会が延期、ゼネラル・リコールもしくは中止の信号を発するまで、艇がレースをしているエリアの 100m 以上外側にいなければならない。

23.3 レース委員会が音響信号 1 音と共にピンク旗を掲揚した場合、全ての運営艇、支援艇は、危険な状態にある艇に対して、可能な限りのあらゆる救助をしなければならない。この旗はレース中であっても掲揚されることがある。この場合、SI 23.1、23.2 は適用されない。

24. ゴミの処分

海上で出たゴミは、支援艇またはレース委員会艇に渡してもよい。

25. リスク・ステートメント

25.1 RSS 3 には『レースに参加するか、またはレースを続けるかについての艇の決定の責は、その艇にのみある。』とある。大会に参加することによって、それぞれの競技者は、セーリングには内在するリスクがあり、潜在的な危険を伴う行動であることに合意し、認めることになる。これらのリスクには、強風、荒れた海、天候の突然の変化、機器の故障、艇の操船の誤り、他艇の未熟な操船術、バランスの悪い不安定な足場、疲労による傷害のリスクの増大などがある。セーリング・スポーツに固有なのは、溺死、心的外傷、低体温症、その他の原因による一生消えない重篤な傷害、死亡のリスクである。

25.2 この大会は RRS 3 に則り、レースへの参加やレースの続行についての艇の決定は、その艇のみにある。主催団体は本大会前後、大会期間中に関連して受けた物的損傷又は個人の負傷、もしくは死亡に対するいかなる責任を否認する。主催団体は参加者・チーム・支援艇にスポーツ安全保険などの傷害保険並びに第三者賠償責任保険に加入することを強く推奨する。

大会役員

大会顧問 空閑浩人

大会会長 古川真

大会副会長 美馬完治

大会委員長 加藤英樹

競技委員

レース委員長 西内海斗

レース副委員長 向井蓮乃

プロテスト委員長 細川猛史

実行委員会

後藤すず

山崎彩加

田村祥希

田原瑠華

江見亜香里

柳本征人

今井駿佑

青木仁子

松居憲正

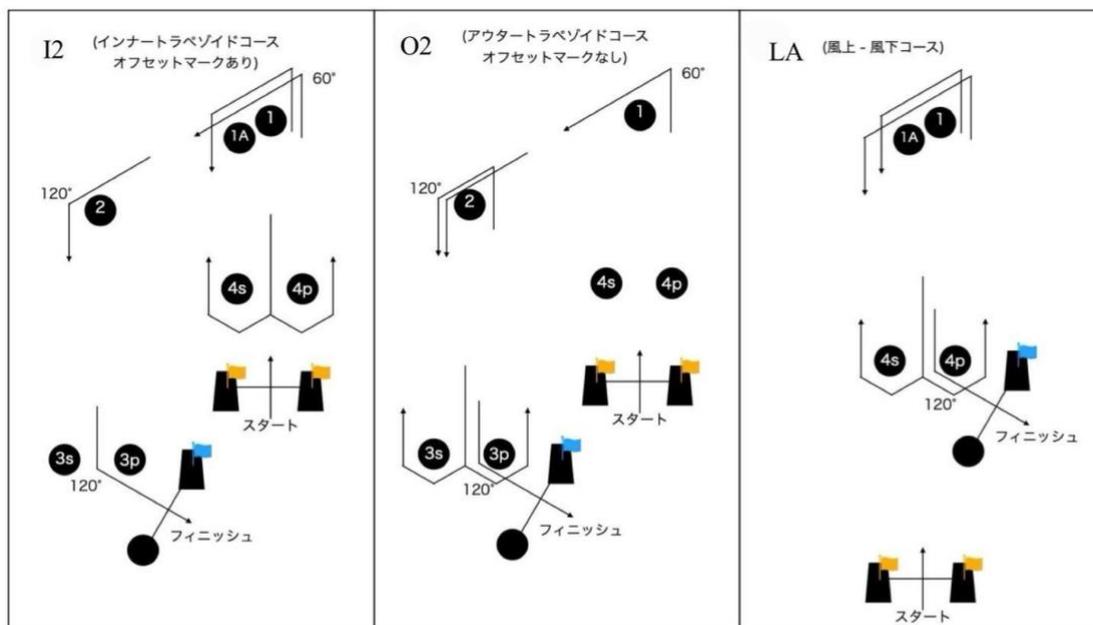
西内颯

古田大己

【添付図1】



【添付図 2】



トラペゾイドコース (インナーループ)	I2	Start-1-1A-4P/S-1-2-3P-Finish
トラペゾイドコース (アウトターループ)	O2	Start-1-2-3P/S-2-3P-Finish
風上 - 風下コース	LA	Start-1-1A-4P/S-1-1A-4P-Finish